

学校法人駒澤学園 中長期計画

第2次 中期計画

(2019年4月～2024年3月)

【2019年度 行動計画】

学校法人 駒澤学園

凡例

1. 本書は、学校法人駒澤学園第2次中期計画（2019年4月～2024年3月）の「2019年度 行動計画」である。第2次中期計画の10の戦略プランごとに、「行動目標」、「将来的展望」に分けて、法人・各設置校・事務局が行うべき「行動計画」を記してある。
2. 本書の用語は、以下のように定義される。
 - 「基本目標」：第2次中期計画で達成すべく設定された到達目標
 - 「行動目標」：早急に取り組まなければならない課題
 - 「将来的展望」：長期的な尺度で必要となる施策
 - 「行動計画」：当該年度に取り組むべき「行動目標」の課題、「将来的展望」の施策
 - 【全 学】：法人・各設置校・事務局が取り組むべき事項
 - 【法 人】：法人が中心となり取り組むべき事項
 - 【大 学】：駒沢女子大学が取り組むべき事項
 - 【大学院】：駒沢女子大学大学院が取り組むべき事項
 - 【短 大】：駒沢女子短期大学が取り組むべき事項
 - 【中 学】：駒沢学園女子中学校が取り組むべき事項
 - 【高 校】：駒沢学園女子高等学校が取り組むべき事項
 - 【幼稚園】：駒沢女子短期大学附属こまざわ幼稚園が取り組むべき事項
 - 【事務局】：事務局が取り組むべき事項

index

1	一貫した駒女アイデンティティ教育の実践と展開	1 頁
2	学生・生徒・園児の確保	2 頁
3	教育の充実	5 頁
4	研究の充実	8 頁
5	学生・生徒・園児支援体制の充実	9 頁
6	経営改革	12 頁
7	人材の確保と育成	13 頁
8	危機管理体制の確立	15 頁
9	ステークホルダーとの連携強化	16 頁
10	地域連携	18 頁

1 一貫した駒女アイデンティティー教育の実践と展開

基本目標 建学の精神・教育理念をもとに全学が連携し、女子総合学園としての一体性を確保する。

行動目標	2019年度の行動計画
1 駒沢学園 (Komajo) らしさの追求	<p>【全学】</p> <p>① 学園が求める教職員像の周知徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学園の建学の精神、教育理念の実現のため、各設置校・事務局の求める教職員像の周知徹底を図り、教職員の学園への理解を深め、意識改善を図る。 <p>② 自校教育プログラム導入に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学園の特色である「駒沢学園 (Komajo)」らしさの理解・追及のため、学園史活動の体制づくりと博物館学実習館の学園史展示を有効活用する。
2 一貫した広報活動	<p>【全学】</p> <p>① 学園・各設置校の教育目的・教育目標の周知徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学園・各設置校の教育目的・教育目標をホームページ等で明示し、教職員・学生・生徒・園児の本学に対する理解と意識向上を図り、さらに全学で共有化させる。 <p>② 各設置校の学内情報共有化による連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各設置校の教育内容、教育活動等を随時、ホームページに掲出し、各設置校の情報共有による学内の連携強化を図る。 <p>③ 学園諸行事の広報と活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建学の精神、教育理念の理解・浸透のため、学園諸行事の年間スケジュールのホームページへの掲出、学内へのポスター掲示等で学内外に告知し、学園諸行事を活性化する。 ・ ステークホルダーの建学の精神、教育理念の理解・浸透のため、学園諸行事の解説物の作成を検討する。
将来的展望	2019年度の行動計画
1 自校教育実施による活性化	<p>【全学】</p> <p>① 自校教育プログラムの開発と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生・生徒・園児に建学の精神、教育理念を理解・浸透させるため、「駒女アイデンティティー教育」(自校教育プログラム)を開発する。 ・ 建学の精神、教育理念に係る全学的な教育内容の見直し。 ・ 「駒女アイデンティティー教育」の実践により、学生・生徒・園児が自ら考え、学園の学びを社会で実践する力を養う。 ・ 「駒女アイデンティティー教育」の実践により、教職員が学園発展のための連帯意識の向上と責任感を醸成する。 <p>② 内部進学 of 恒常化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「駒女アイデンティティー教育」の実践により、内部進学率を向上させる。

2 学生・生徒・園児の確保

基本目標 各設置校の教育水準を保ちつつ、安定的に学生・生徒・園児の定員を充足する。

行動目標	2019年度の行動計画
1 社会情勢に応じた入試形態の採用	【大学】
	① 人間総合学群の入試制度等の見直しと実施 ・ 人間総合学群の入試日程や入試ごとの定員枠の見直しを行い、実施する。
	② 看護学部の入試選抜方法の見直しと実施 ・ 看護学部の一般入試における面接試験を得点化し、選抜方法を明確にする。
	③ 多様な学生募集のための入試制度の見直しと実施 ・ 多様な学生の受け入れを目的に、受験資格を見直し、明示する。 ・ 障がいのある学生受け入れのため、学内の協力体制を確立する。
	④ 編入学入試における入試選抜方法の見直しと実施 ・ 2020年度入試から人間文化学類と観光文化学類で募集を開始する編入学試験では、編入学の定員増のため、専修学校への広報活動等の入試広報を見直し、実施する。
	【短大】
2 オープンキャンパス等 の見直しと実施	① 保育科の入試選抜方法の見直し ・ 保育科への志願者・入学者増を目的に、A0入試・推薦入試の選抜方法を見直し、実施する。具体的には、受験生の特性・個性を評価する選抜方法等の導入を検討する。
	【中学・高校】
	① 入学者数増のための入試選抜・入試広報の見直しと実施 ・ 高等学校の併願希望者増のため、内申基準値の見直しと入試問題の内容を検討する。 ・ 中学校の志願者・入学者増のため、入試広報を見直し、実施する。
1 社会情勢に応じた入試形態の採用	【幼稚園】
	① 定員数確保のための見直しと実施 ・ 幼稚園の定員数確保のため、2歳児教室の保育内容の充実を検討する。 ② 幼児教育の拠点となるための情報発信の取り組み
2 オープンキャンパス等 の見直しと実施	【大学】
	① オープンキャンパスの実施方法の見直し ・ オープンキャンパス来場者数増のため、自由度を高めるプログラムの実施を検討する。 ② WCVの見直し ・ WCVの参加者に、効果のある授業科目の設定を検討する。 ③ 入学前交流会の実施 ・ 入学予定者の本学への理解を深めることを目的に、入学前交流会を継続して実施する。

	<p>④ 入学前学習の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A0入試の入学予定者に対する入学前課題を継続して実施する。具体的には、より効果的な課題を与え、提出させる。
	<p>【短大】</p> <p>① オープンキャンパスの見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパス来場者数増のため、自由度を高めるプログラムの実施を検討する。 ・ 現役学生の運営参加、来場者の参加体験型のプログラムの実施を検討する。 ・ 来場者アンケート結果の活用による内容の充実を行う。 ・ 入学後の学びをイメージしやすい企画を実施する。具体的には、来場者に「身体表現発表会」を動画で紹介する。 <p>② WCVの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WCVの参加者に、効果のある授業科目の設定を検討する。 <p>③ ピアノ学習事前説明会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学前の3月に実施しているピアノ学習事前説明の告知方法を改善し、より多くの入学予定者が参加できるようにする。 <p>④ 入学前学習の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学予定者の入学前学習の効果を上げるための改善を検討し、行う。具体的には、2019年度入学予定者と同様にペン字課題を課すが、返却方法を改善し、より効果的な入学前学習になるように努める。 <p>【中学・高校】</p> <p>① オープンキャンパスの見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパスの来場者増のため、受験生が興味を持つイベント内容を検討し、実施する。 <p>【幼稚園】</p> <p>① 入園説明会・見学者対応の見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園説明会の実施方法と見学者対応を見直し、実施する。
<p>3 広報ツールの見直しと実施</p>	<p>【大学・短大】</p> <p>① 学校案内の見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特色を出せる学校案内の作成のため、編集体制や業者の見直しを行う。 ・ 学校案内の別冊ダイジェスト版を作成し、学園の行事参加者等に配付する。 ・ デジタルパンフレットのホームページ上へのアップを検討する。 <p>② 各学類・学科のホームページの見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他大学のホームページとの比較を行い、不足している内容を把握し、各学類・学科のホームページを改善する。 <p>③ 高校訪問の見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学・短大への入学増のため、より多くの入学者が期待できる高等学校への訪問を強化する。 <p>④ 出前授業への教員派遣の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校で実施する出前授業に、より多くの教員を派遣できるよう、努める。 <p>⑤ 保証人などのステークホルダーとの連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保証人が手にする雑誌やインターネットサイトへの広報活動を強化する。

	<p>【中学・高校】</p> <p>① 入試広報ツールの見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯電話・スマートフォンを活用した入試広報ツールを検討する。 ・ 受験雑誌への掲載記事内容の刷新を行う。 ・ 入試広報ツールの活性化のため、ホームページ、インスタなどを活用する。 <p>【幼稚園】</p> <p>① ホームページ・パンフレットの見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ、パンフレットの見直しを行い、魅力ある内容に変更する。
<p>4 定員充足のための検討</p>	<p>【大学院】</p> <p>① 大学院仏教文化専攻の定員充足のための検討</p> <p>【短大】</p> <p>① 将来構想委員会にて短大保育科の定員充足のための検討</p> <p>【中学】</p> <p>① 中学校の定員充足のための検討</p>
<p>将来的展望</p>	<p>2019年度の行動計画</p>
<p>1 多様な学生を確保するための検討</p>	<p>【大学】</p> <p>① 生涯学習プログラムの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シニア世代への多様な生涯学習プログラムの提供を検討する。 ・ サテライト教場の可能性を検討する。 <p>【短大】</p> <p>① 生涯学習プログラムの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都福祉財団との連携による子育て支援員育成プログラムを検討する。 ・ 地域の子育て・防災のための中核となる「幼児教育センター（仮称）」の設置を検討する。 <p>【中学・高校】</p> <p>① 正課以外の学習指導体制の検討</p>

3 教育の充実

基本目標 各設置校の段階に即した基礎教育と、学生・生徒の意欲・要望に応じた教養・専門教育を実施する。

行動目標	2019年度の行動計画
1 教育の質の向上	【大学】 ① 内部質保証の体制の実施と改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学的な内部質保証の周知徹底を図る。 ・ 内部質保証システムにおけるPDCAサイクルの有効性、教育活動及び自己点検・評価の社会に対する説明責任を行う。 ・ 内部質保証システム・教育組織の適切性について、定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取り組みを行う。 ② 教育の質を保証するための仕組みの整備と実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の卒業時の学修成果の質を保証するための学修到達度の評価を実施する。 ・ 教育の質の向上のため、教員のFD活動の活性化を図る。 ・ 教育内容・方法・教育環境の定期的な点検・評価・改善・向上のための取り組みを行う。 ③ 第3期 認証評価への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認証評価への対応から特定された課題、問題点への改善策を検討し、実施する。 ④ 教育改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金「私立大学等改革総合支援事業（教育の質的転換）」「教育の質に係る客観的指標」を通して、本学の教育改革の現状を把握し、未実施事項への取り組みを行う。
	【短大】 ① 内部質保証の整備と実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部質保証のため、3Pの設定と点検・評価・改善・向上を行う。 ・ 教員FD研修の授業参観における評価・改善のため、報告会を行う。 ② 教育の質を保証するための仕組みの整備と実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の卒業時の学修成果の質を保証するための仕組みを整備し、実施する。 ・ 教員のFD活動の活性化を図る。 ・ 教育内容・方法・教育環境の定期的な点検・評価・改善・向上のための取り組みを行う。 ③ 学生の基礎学力強化のための取り組み強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学生の基礎学力強化のため、入学前準備教育の内容を見直し、実施する。 ④ 教育改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金「私立大学等改革総合支援事業（教育の質的転換）」「教育の質に係る客観的指標」を通して、本学の教育改革の現状を把握し、未実施事項への取り組みを行う。
	【中学・高校】 ① 教務研修会（外部講師を含む）・教員研修会の実施
	② 教育の質の保証のための仕組みの整備と実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の質の保証のため、生徒による授業アンケートを実施し、検証する。

	<p>【幼稚園】</p> <p>① 時代に応じた教育課程の再編成と教職員の共通理解の促進</p> <p>② 外部研修参加の促進とその報告会の実施</p> <p>③ 自己評価と外部評価の実施による園保育の質の向上</p>
2 柔軟性のある教育プログラムの構築	<p>【大学】</p> <p>① 多様な学生の受け入れの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な学生（社会人、留学生、障がい者など）の受け入れ体制を検討し、実施する。
	<p>【短大】</p> <p>① グローバル化に対応した科目の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多文化保育等、異文化理解につながる科目の充実を検討する。 ・ 外国につながる子どもと保護者に対応できる英語力を、学生に習得させるための教育内容を検討する。 <p>② 高校生参加促進のための保育科行事の外部開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の参加促進のため、身体表現等の保育科学修成果の開放と学内環境づくりを行う。
	<p>【中学・高校】</p> <p>① 多様なニーズに応える教育と新しい教育プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の進路に沿った選択科目の設定等、教育内容の充実を図る。 ・ 中学の21世紀ワールドスタディーズ（学年横断型授業）を実施する。 ・ 高校のライフデザイン（社会生活に必要な知識・技能を身につける）・Komajo Quest（新学力対応）を実施する。 <p>② ICT教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板・タブレットを活用した授業を実施する。 ・ 「情報」の授業でのパソコン対応・オンライン学習を実施する。 <p>④ グローバル教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TGG(TOKYO GLOBAL GATWAY)プログラムの参加、夏期英語研修を実施する。 ・ 英語ネイティブ講師による授業、英語のT・T（チーム・ティーチング）の実施、英語自習室の設置を行う。
	<p>【幼稚園】</p> <p>① 年間保育プログラムの見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動に即した年間保育プログラムを構築し、実施する。 ・ 幼稚園行事の実施方法・内容等を見直し、実施する。
将来的展望	2019年度の行動計画
1 IT教育の充実	<p>【大学】</p> <p>① IT教育環境の整備の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教場等の無線Wi-Fi整備を検討する。
	<p>【短大】</p> <p>① 学生のパソコン技能向上のための教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習・卒業後の幼稚園等の事務作業に対応可能な、学生のPC技能習得のための教育内容の充実を図る。

	<p>【幼稚園】</p> <p>① 幼稚園文書のデジタル化 ・ 幼稚園の指導案・個別計画・日誌等の文書のデジタル化を進める。</p> <p>② IT環境を活用した保育内容の充実 ・ 幼稚園の保育活動へのインターネット上の動画教材等の活用を進める。</p>
2 グローバル教育の充実	<p>【大学】</p> <p>① グローバル化社会に対応した教育内容の検討</p> <hr/> <p>【短大】</p> <p>① グローバル化社会に対応した教育と実践力を高めるための教育の充実</p> <hr/> <p>【幼稚園】</p> <p>① 異文化理解のための保育の充実 ・ 外国に関わりのある保護者の保育参画を検討する。</p>
3 国際貢献できる人材の育成	<p>【大学・短大】</p> <p>① 国際貢献できる人材を輩出できる体制の検討</p>

4 研究の充実

基本目標 社会に評価され、教育に資する最先端の研究を推進し、そのための環境を充実する。

行動目標	2019年度の行動計画
1 学内の研究体制の再編成と活性化	<p>【大学】</p> <p>① 学内研究体制の再編と新たな研究体制の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本文化研究所の活動内容を見直し、学内研究体制の再編を検討する。 ・ 新たな共同研究体制づくりのための検討を行う。 <p>【短大】</p> <p>① 研究成果の学内共有化と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の研究成果の学内共有化と学外への発信を促進する。 <p>② 類似する専門分野の情報交換の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 類似する専門分野でつくる定期的な情報交換会を開催する。 <p>③ 研究発表会の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の研究発表会の定期開催と発表機会を増やす。
2 中高幼の教育研究・研修の充実	<p>【中学・高校】</p> <p>① 教務研修会（外部講師を含む）・教員研修会の実施</p> <p>【幼稚園】</p> <p>① 自己点検・評価と外部評価の実施</p> <p>② 幼稚園教員のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教員のスキルアップのため、東京都私立幼稚園協会の研修参加ポイントを増やす。 ・ 幼稚園教員の上級資格取得の促進と、そのための環境整備を行う。
将来的展望	2019年度の行動計画
1 国際的学术交流の見直し	<p>【大学】</p> <p>① 国際的学术交流の見直し</p> <p>【短大】</p> <p>① 国際的学会への参加の促進の検討</p>
2 学内研究助成の見直し	<p>【大学】</p> <p>① 若手研究に対する研究助成の検討</p> <p>【短大】</p> <p>① 保育科内で組織する研究助成のための枠組みづくりの検討</p>

5 学生・生徒・園児支援体制の充実

基本目標	学生・生徒・園児の学修（習）、生活、進路、情報環境について、思いやニーズに合った支援システムを充実する。
-------------	--

行動目標	2019年度の行動計画
1 学修（習）環境支援の充実	【大学・短大】 ① 学生の能力に応じた補習教育・補充教育の実施 ・学修支援センターの体制、機能の強化を図る。 ② 多様な学生（社会人・留学生・障がいのある学生）に対する学修支援 ・学生支援関連部署・委員会が連携する支援体制の強化を図る。 ③ 学生の就学状況の把握と留年・退学の防止 ・担任制、アドバイザー制及び関連部署が連携を図り、スチューデントプロフィールを有効に活用して、学生の就学状況を把握し、個別のきめ細かい支援により、留年・退学等を防止する。 ④ 学生への経済的支援体制の充実 ・本学独自の奨学金制度を充実させ、学生への経済的支援を図る。 ・高等教育の修学支援新制度への申請を行い、対象校としての採択を受ける。 ・在学生スカラシップ制度を見直し、限られた財政状況のなかで、効果的に学修意欲を高められる制度設計を行う。 ⑤ 図書館・ラーニングcommons利用のための改善 ・主体的な学修や学修時間の確保のため、図書館機能の見直しを図るとともに、ICTを活用した教育環境等の整備を検討する。 ・Wi-Fi環境の段階的な整備を検討する。 ⑥ 地域産業界等と連携した実践的PBL（課題解決型学習）の実施 ・授業にPBLを積極的に導入し、地域社会の発展を支える人材の育成を図る。 ⑦ 学生の要望に対応した学修支援の実施 ・授業アンケート、卒業年次アンケートをはじめとして、各種面談等、様々な機会から学生のニーズを捉え、多様な学生の要望に応える学修支援を実施する。
	【中学・高校】 ① 校内の学習環境の整備 ・校内の自習室、職員室前ホワイトボードを設置する。 ・下校時刻を18時まで延長する。 ② クラブ活動の充実 ③ 個人面談の充実 ・生徒の個人面談週間を実施する。

	<p>【幼稚園】</p> <p>① 保育教材等の物的環境の整備強化 ・ 経年劣化に伴う幼稚園教材の交換を行う。</p> <p>② 短大保育科との連携による保育内容の充実 ・ 短大保育科教員の専門性との連携を促進し、保育内容を充実する。</p> <p>③ 多様な園児・保護者への支援体制の充実 ・ 特別に支援が必要な園児・保護者、多様な文化的背景のある園児・保護者への支援を充実する。</p>
<p>2 生活環境支援の充実</p>	<p>【大学・短大】</p> <p>① 学生支援体制の強化 ・ 学生支援関連部署の連携を強化し、全学的な学生支援体制の充実を図る。</p> <p>② ハラスメント防止のための施策検討・啓発 ・ ハラスメント対応部署を中心として、防止及び適切な対応に向けて体制の見直しも含め、全学的に取り組む。</p> <p>③ 学生の心身の健康、保健衛生及び安全確保 ・ 学生相談室、保健室、担任及び学生支援関連部署による支援体制の強化・充実を図る。</p> <p>④ 学生の正課外活動（部活動、ボランティア等）を充実させるための支援の実施 ・ 部活動やボランティア活動等、教育効果の高い正課外活動に対する支援を強化する。</p> <p>⑤ 学生の要望に対応した学生生活支援の実施 ・ 学生支援関連部署の支援活動・卒業年次アンケート等により、学生のニーズ等を把握し、多様な学生の要望に応える支援を実施する。</p> <p>【中学・高校】</p> <p>① 校内設備の整備 ・ 自動洗浄トイレ・自動点灯トイレの整備と教室及び廊下のフローリング化、教室の冷暖房完備、中庭窓ガラス飛散防止フィルムの設置を行う。</p> <p>【幼稚園】</p> <p>① 幼稚園備品等の物的環境の整備強化 ・ 経年劣化に伴う幼稚園備品の交換を行う。</p>
<p>3 学生・生徒の進路に関する支援の実施</p>	<p>【大学・短大】</p> <p>① 学生のキャリア支援を行うための体制の整備と学内連携の強化</p> <p>② 進路選択に関わる学生支援の充実</p>
<p>4 情報環境支援の充実</p>	<p>【大学・短大】</p> <p>① 学生の視点に立ったICT環境の検討 ・ ポータルサイトの機能拡張を検討する。 ・ 教室等の無線Wi-Fi整備を検討する。</p>

	【中学・高校】 ① 危機管理連絡網とコミュニケーションツールの環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急連絡網 Fair Cast・Classi（生徒－教員間、保護者－教員間のコミュニケーションツール）を導入する。 ・ 全ホームルーム教室のWi-Fi整備と電子黒板の設置を行う。
	【幼稚園】 ① 幼稚園教職員用PCの設置と活用 ② 事務作業効率化に向けた幼稚園のIT環境整備
将来的展望	2019年度の行動計画
1 特色ある支援体制の確立	【大学】 ① テーラーメイド教育による総合的学修支援の充実
	【短大】 ① 実習園と連携した学生の学修機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習園でのインターンシップによる学修機会の提供を検討する。
	【幼稚園】 ① 幼稚園の保育内容の充実のための大学・短大・事務局との連携強化

6 経営改革

基本目標 教職員のコスト意識を向上させ、単年度ベースでの収支バランスの均衡を期間内に達成する。

行動目標	2019年度の行動計画
1 経営ガバナンスの強化	<p>【法人】</p> <p>① 前年度実績に基づいた事業計画の策定と実行</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度実績を踏まえ、各設置校・事務局で作成された事業計画を基に、厳格な予算編成を行い、予算を執行する。 年度末に予算実行の総括を行い、支出超過の状況を把握し、改善策を講じる。 財政の健全化のため、学園の全教職員のコスト意識を向上させる。 <p>② ガバナンス・コンプライアンス体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 学園業務の公共性・公平性・透明性・信頼性を高め、違法・不正及び不当な行為の根絶を図り、学園の社会的責任・使命を果たす。 常に建学の精神を念頭に置き、公共の福祉、学園の発展をめざすことを目的に、学内における体制強化と周知徹底を図る。 学園を取り巻く環境の変化や、求められる多様な事務に柔軟に対応し、機能できる事務組織への再編を行う。 <p>③ 内部監査の適正なる運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 学園のガバナンス・コンプライアンスの維持・向上を目的に、法人業務部門と教学部門に分けて、各監査担当者がヒアリング等の監査を行い、理事長に報告する内部監査の制度を適正に実施する。
2 財務状況の改善	<p>【法人】</p> <p>① 人件費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の適正な配置、若年層の雇用等を行い、人件費の抑制を図る。 <p>② 財務分析の実施による財務状況の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 財務状況の改善を目的に、恒常的な財務分析の実施により、学園の経営状態を把握する。 <p>③ 予算編成におけるヒアリング強化</p> <ul style="list-style-type: none"> コスト削減を目的に、予算編成における学内各部署・各設置校の厳正なるヒアリングを実施する。
将来的展望	2019年度の行動計画
1 学内施設設備の改修・更新の 年次計画策定	<p>【法人】</p> <p>① 中長期にわたる学内施設設備の修繕年次計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期的な財務管理のため、高額な費用負担が予想される施設設備の改修・更新工事について、年次計画を策定し実施する。

7 人材の確保と育成

基本目標 学園の永続的発展のため、有能な人材の適切な年代構成に配慮した採用及び育成システムを構築する。

行動目標	2019年度の行動計画
1 教職員の意識向上と育成	<p>【法人】</p> <p>① 全学的なFD・SD活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員の本学への帰属意識の向上、学園を取り巻く課題や学園人として必要とされるスキル・資質の向上に資するFD・SD研修を実施する。 <p>② 人事評価の評価基準等の見直しと実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人事評価制度の見直しを行い、職員の業務の前向きな姿勢、積極的な取り組み等の意識改善を図る。 <p>【大学・短大】</p> <p>① 適正かつ計画的な教員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各設置校の教育内容と設置基準に基づき、適正かつ計画的な教員配置を実施する。 <p>【中学・高校・幼稚園】</p> <p>① 教員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期休暇を活用した教員の外部研修への積極的参加を促し、教員の資質向上を図る。
2 適切な人材確保と配置	<p>【事務局】</p> <p>① 事務局の適切な人材確保の制度の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員採用の手続き制度を見直し、退職動向への対応と部署ごとに必要とされる適切な人材確保を行う。 <p>② 事務局各部署の職員配置の見直しと業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署の業務量・職員の年齢構成等を把握し、適正な人員配置による業務の効率化、人件費の抑制を図る。 <p>③ ジョブローテーションを意識した事務局職員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な人事異動による、職員の事務各部署業務の理解の向上を図り、事務部署間の円滑なる業務連携を促進し、全学的な業務の効率化を図る。 <p>【大学・短大】</p> <p>① 各設置校の教育内容等に応じた適正な教員の採用と配置</p> <p>【中学・高校】</p> <p>① 生徒数・教育内容に応じた適正な教員の採用と配置</p> <p>【幼稚園】</p> <p>① 園児数・保育内容に応じた適正な教員の採用と配置</p>
将来的展望	2019年度の行動計画
1 専門性・創造性・自主性を備えた職員の育成	<p>【事務局】</p> <p>① アドミニストレーターの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年々複雑化している業務に対応可能な、専門性・創造性・自主性を備えた職員の育成をめざす。

2 職務に応じた給与体系の確立	【法人】 ① 給与体系の抜本的な見直し <ul style="list-style-type: none">・ 職務に応じた給与体系への見直しを行い、教職員の就労意識の向上と人件費の抑制を図る。
------------------------	--

8 危機管理体制の確立

基本目標	学園生活において、安心、安全を保つため、想定されるあらゆる危機に即応できる管理体制を整える。
-------------	--

行動目標	2019年度の行動計画
1 リスクマネジメント体制の強化	【法人】
	① 防災マニュアルの見直しと全学的・恒常的な避難訓練の実施 ② 多様な情報社会に対するセキュリティーシステムの管理体制の見直し
2 教職員の安全衛生管理の推進	【法人】
	① 教職員の安全衛生管理意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期健康診断受診者数10割を恒常的に達成する。 ・ ストレスチェック受信者数9割を恒常的に達成する。 ・ 普通救命講習受講者数7割を達成する。
将来的展望	2019年度の行動計画
1 災害時の地域連携の検討	【法人】
	① 災害時における地域との連携の検討
2 危機管理に関する委員会の整備	【法人】
	① 危機管理に関する委員会の再編と関連諸規程の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・ ハラスメント対応委員会、苦情処理委員会等を再編し、関連諸規程の見直しを実施する。

9 ステークホルダーとの連携強化

基本目標 ステークホルダーである卒業生及び保護者から信頼される、開かれた学園にする。

行動目標	2019年度の行動計画
1 同窓会の組織再編と活性化支援	【大学・短大】 ① 同窓会組織の再編と活動支援体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同窓会名簿を整備する。 ・ 同窓会・同窓生活動をホームページ等に掲載する。 ・ 卒業年次生への同窓会への勧誘と、卒業後のOG会開催への支援を行う。
	【中学・高校】 ① 明星会の活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総会、りんどう祭参加、日帰りイベント、高校3年生正副級長との交流、明星会会報の発行等、明星会活動を活性化する。 ・ 総会への参加者増を検討する。 ・ 同窓会・同窓生活動をホームページ等に掲載する。
	【幼稚園】 ① 幼稚園同窓会組織の整備と情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生・生徒募集のため、卒園生名簿を作成する。
2 卒業生との連携強化	【大学・短大】 ① 卒業生とのつながりを維持するための行事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ クラス会等の短大卒業生のつながりを維持するための行事を行う。 ・ 卒業生の正課授業の招聘講師としての登用を検討する。
	【中学・高校】 ① 同窓会とクラス会の連携強化 ② 卒業生の参加に配慮する体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ りんどう祭での卒業生の集いを開催する。
	【幼稚園】 ① 卒園生との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 園行事への卒園生受け入れを行う。 ・ 稲城市内在住卒園生への成人の日お祝いメッセージカードを発送する。
3 保護者との連携強化	【大学・短大】 ① 連携行事・相談会等の実施による保護者との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者会・保護者相談会等を実施し、保護者との連携強化を図る。 ・ 保護者への学園行事の案内と実施状況の報告を行う。
	【幼稚園】 ① 保護者と園の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 園行事後の保護者アンケートを実施する。 ・ 園への理解を高めるための情報発信を検討する。

将来的展望	2019年度の行動計画
1 駒沢学園同窓会組織の確立	<p>【法人】</p> <p>① 一元化された同窓会組織の確立（大・短・高・中・幼）</p> <p>② 帰属意識を高めるための情報発信ツールの確立</p> <hr/> <p>【中学・高校】</p> <p>① 明星会と同窓会の連携強化</p> <p>② 卒業生への広報ツールの見直し ・ SNSを活用した広報ツールを検討する。</p> <p>③ 同窓会の個人情報の管理体制 ・ 同窓会名簿の管理を整備する。</p>
2 同窓会事務及び集える場所の整備	<p>【法人】</p> <p>① 一元化された同窓会事務局の確立（大・短・高・中・幼） ・ ステークホルダーとの連携強化のため、各設置校の卒業生名簿の収集と情報の一元管理体制を整備する。</p>

10 地域連携

基本目標 総合学園としての資源、機能を生かし、地域のニーズに即した発信型の地域連携を展開する。

行動目標	2019年度の行動計画
1 地域連携の推進	【大学】
	① 学外組織との適切な地域連携の推進 ・ 地域連携・産学連携協定等の締結を促進する。
	② 学園の資源、機能を生かし、地域のニーズに即した発信型の地域貢献 ・ 建学の精神・各設置校の特色を生かした地域貢献を行う。
	③ 地域交流・地域の国際交流事業への学生参加 ・ ボランティア、ボランティア関係の授業を開講し、学生の意識を高める。
	【短大】
	① 地域交流・地域の国際交流事業への学生参加 ・ 保育科の特色を生かした学生ボランティアを行う。
将来的展望	【中学・高校】
	① りんどう祭での地域連携 ・ 稲城市福祉協議会直営「エイトピア工房」との連携を推進する。 ・ 書道展開催による稲城市内小・中学校との連携を深める。
	② 稲城市内のボランティア清掃
	③ 近隣公立中学校への出前授業
	④ 学外の小・中学校の児童・生徒を対象とするクラブの講習会開催
	【幼稚園】
① 地域教育懇談会との連携強化	
② 稲城市内ボランティア活動への参加 ・ 地域の防犯活動への協力体制について検討する。	
1 地域連携の組織づくり	【全学】
	① 全学的な地域連携体制づくりのための検討 ・ 地域連携部門の設置に向けた事務組織の再編を検討する。
	【幼稚園】
① 「幼児教育センター（仮称）」構想の検討 ・ 幼児教育の拠点となるための情報発信を検討する。	

学校法人駒澤学園 中長期計画

第2次 中期計画

(2019年4月～2024年3月)

【2019年度 行動計画】

学校法人駒澤学園

2019年4月1日